改訂版

＜猪苗代町文化財探検マップ＞

磐椅（いわはし）王国（おうこく）

いなわしろの古代から近代までの歴史が解る

目　次

地理 …… 1～3
天然記念物 …… 4～8
古代 …… 9～11
中世 …… 12～19
近世 …… 20～27
近代 …… 28・29
民俗文化財 …… 30・31
年中行事／指定文化財 …… 32・33
歴史年表 …… 34・35
探検マップ …… 36・37

―猪苗代町教育委員会―

―はじめに―

私たちが暮らす猪苗代町は、古来より豊かな自然環境に恵まれながら多くの人々が居住し、社会や文化を育成してきた地域です。ここには史跡や天然記念物、埋蔵文化財など数多くの文化財がみられ、昭和25年に制定された文化財保護法や町条例によって、その保存と管理・活用が図られてきました。

現在町内には会津藩主松平家墓所や見祢の大石などの国指定文化財が11件、観音寺石造宝篋印塔や紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸などの県指定文化財が12件、旧山内家住宅や三忠碑などの町指定文化財が39件あり、さらに大神遺跡や観音屋敷遺跡などの埋蔵文化財の登録は、149ヶ所に及んでいます。

この『磐椅王国』は、町民の方々が地元にある文化財を理解し、祖先の足跡を尊び、郷土を愛する心を培うと共にこれら貴重な文化遺産を後世に伝えることを目的として、平成10年に作成したものです。今回多くの方々のご要望により、好評であった本冊子を新たな指定文化財も加えて改訂することとなりました。この冊子が再び家庭や職場、学校において広く活用され、町民各位における生涯学習の一助となることを期待すると共に本書の刊行にあたり関係各位からの多大なるご協力に対して心より厚く感謝申し上げます。

平成17年5月31日　猪苗代町教育委員会

●文化財の種類

- 有形文化財 ― 重要文化財（重要なもの） ― 国宝（特に価値の高いもの）
  - 〔建造物ー社寺・城郭・石塔等〕
  - 〔美術工芸品ー絵画・彫刻・工芸品・書跡・考古資料・歴史資料等〕
- 無形文化財 ― 重要無形文化財
  - 〔芸能・工芸技術等〕
- 民俗文化財 ― 重要無形民俗文化財／重要有形民俗文化財
  - 〔無形の民俗文化財ー衣食住・生業・信仰等に関する風俗習慣・民俗芸能〕
  - 〔有形の民俗文化財ー無形の民俗文化財に用いられる衣服・器具・家屋等〕
- 記念物
  - 史跡 ― 特別史跡
    - 〔遺跡ー貝塚・古墳・都城跡・城跡・旧宅等〕
  - 名勝 ― 特別名勝
    - 〔名勝地ー庭園・橋梁・峡谷・海浜・山岳等〕
  - 天然記念物 ― 特別天然記念物
    - 〔動物・植物・地質鉱物〕
- 伝統的建造物群 ― 伝統的建造物群保存地区 ― 重要伝統的建造物群保存地区
  - 〔宿場町・城下町・農漁村等〕
- 文化財の保存技術 ― 選定保存技術
  - 〔文化財の保存に必要な材料製作、修理・修復の技術等ーからむし生産等〕
- 埋蔵文化財
  - 〔土地に埋蔵されている文化財ー遺跡〕

町の花・木・鳥

町の花／サギソウ

町の木／ナナカマド

町の鳥／白鳥
（昭和49年11月3日告示）

― 地　理 ―

猪苗代町（いなわしろまち）

本町は東北地方の南端を占める福島県の中央、東経140°06′北緯37°33′の線上に位置する農業と観光の町です。また会津地方の東部にあって中通り地方と隣接していることから、古くより交通の要衝、文化の接点として重要な役割を果たしてきた地域です。

人口は17,227人（平成17年3月31日）を数え、広さは東西17.6km 南北27.4kmと南北に長く、総面積は395.00km²を誇ります。標高は514～1,975mと比高差があり、高冷地のため平均気温は9.9℃と低く、年間降水量の多い豪雪地帯に属しています。町制の経緯については、明治二十二年の町村制実施に伴う編成区域で成立した旧猪苗代町と翁島・千里・月輪・長瀬・吾妻の各村が昭和三十年に合併して今日に至っています。

❶ 磐梯山（ばんだいさん）

万葉の昔から和歌に登場する磐梯山は、会津地方を代表する山の一つです。標高1,819mを計る活火山で、過去度々噴火活動をくり返しており、特に明治二十一年（1888）には、小磐梯を吹き飛ばす大爆発を起こし、死者477名を出す大災害を及ぼしました。この爆発によって裏磐梯には300を超す湖沼ができました。

現在山麓にはスキー場や宿泊施設が数多く建てられ、四季を通じ観光地として賑わいをみせています。

「会津嶺の国をさ遠み逢はなは　偲ひにせもと紐結はさね」
「枝折してゆかましものを会津山　入よりまとふ道としりせは」

❷ 猪苗代湖（いなわしろこ）

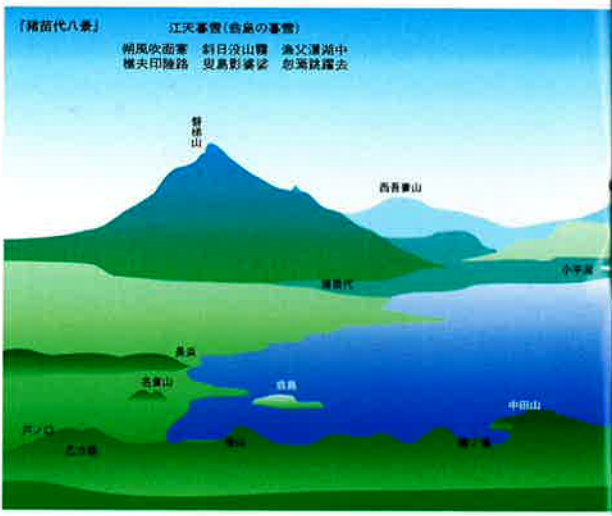
我が国第４位の大湖で、面積103.32km²、深さ93.5m、透明度12～15mを計る。湖に注ぐ長瀬川が酸性のため、水質はPH５以下の弱酸性で、魚の生息にはあまり適さず、漁業に活用されている魚は、ウグイやフナなどに限られています。それでも国指定天然記念物のミズスギゴケ群落やハクチョウの渡来地として、貴重な生態系を保有する区域に指定されています。またその水は水力発電や灌漑・飲料の用水として大いに活用されており、夏場は湖水浴等を楽しむ人々が多く訪れています。

志田浜

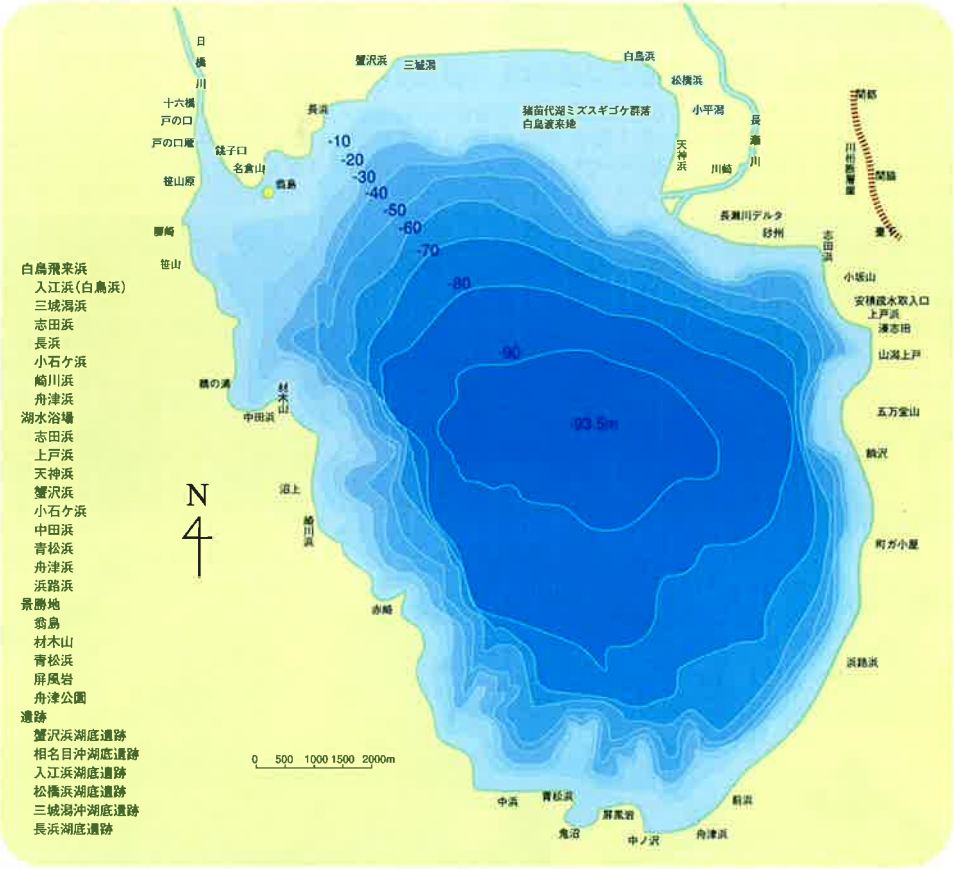
❸ 川桁断層崖（かわげだんそうがい）

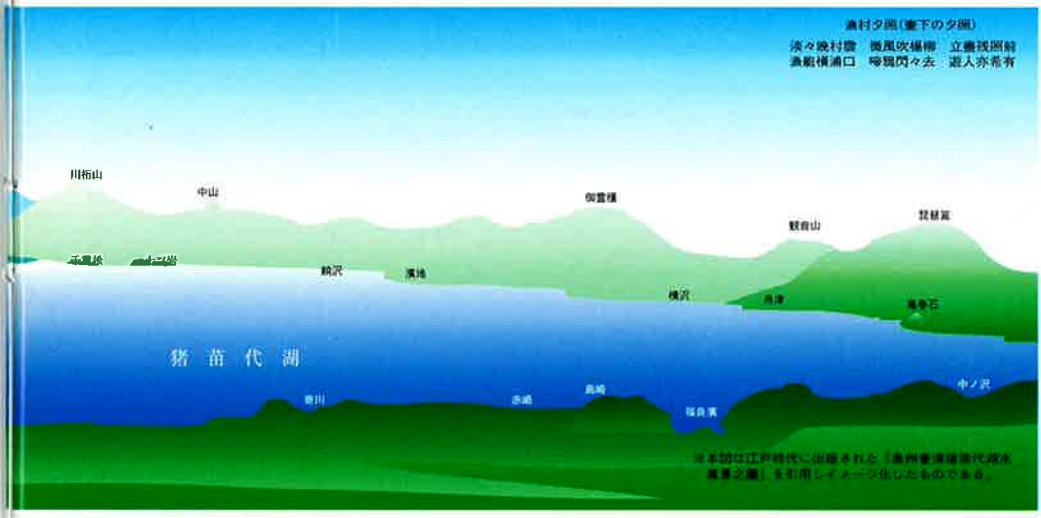
本町の東側には、川桁山（1,413m）を中心とした標高1,200m級の山々が、屏風を立並べた様に南北に縦走し、切り立ったＶ字谷と扇状地が連続しています。これは断層運動（活断層）によって形成されたもので、徐々に山地は隆起し、低地は沈下するという地殻変動の結果を具体的に観察できる場所です。

■川桁断層崖と扇状地列



■猪苗代湖等深線図


日橋川
十六橋
戸の口
戸の口堰
銚子口
名倉山
笹山原
鶴島
長浜
蟹沢浜
三城潟
白鳥浜
松橋浜
小平潟
猪苗代湖ミズスギゴケ群落
白鳥渡来地
天神浜
川桁
長瀬川
長瀬川デルタ
砂州
志田浜
関都
関脇
蔵王
川桁断層崖
-10
-20
-30
-40
-50
-60
-70
-80
-90
-93.5m
鶴島
鶴ノ崎
笹山
鶴の浦
材木山
中田浜
沼上
崎川浜
赤崎
中浜
青松浜
屏風岩
亀沼
中ノ沢
舟津浜
浜路浜
町ガ小屋
横沢
五万堂山
山潟上戸
浜志田
上戸浜
安積疏水取入口
小坂山
N
0 500 1000 1500 2000m
白鳥飛来浜
入江浜(白鳥浜)
三城潟浜
志田浜
長浜
小石ケ浜
崎川浜
舟津浜
湖水浴場
志田浜
上戸浜
天神浜
蟹沢浜
小石ケ浜
中田浜
青松浜
舟津浜
浜路浜
景勝地
鶴島
材木山
青松浜
屏風岩
舟津公園
遺跡
蟹沢浜湖底遺跡
相名目沖湖底遺跡
入江浜湖底遺跡
松橋浜湖底遺跡
三城潟沖湖底遺跡
長浜湖底遺跡


漁村夕照(豊下の夕照)
淡々晩村霞　微風吹柳柳　立鷺残照鮮
漁艇横浦口　帰鴉閃々去　遊人亦希有
川桁山
中山
御霊様
観音山
琵琶首
横沢
舟津
猪苗代湖
赤崎
鶴ノ崎
中ノ沢
※本図は江戸時代に出版された「奥州會津猪苗代湖水
蒲原之圖」を引用しイメージ化したものである。

ー天然記念物ー

④猪苗代湖のハクチョウおよび渡来地（猪苗代湖北岸）

猪苗代湖の北岸（長浜～志田浜）には、毎年2,000羽以上の白鳥が渡来し、10月上旬～翌年４月上旬まで滞留します。渡来する白鳥の大半は、口ばしの先から目元にかけて黒いコハクチョウとそれより体が一回り大きく、口ばしの半分が黒いオオハクチョウの2種類です。町では昭和四十年より「猪苗代湖の白鳥を守る会」が発足し、その保護に努めてきました。

この他湖には冬期にハクチョウと共にマガモ・コガモ・オナガガモ・スズガモ・キンクロハジロ・トモエガモ・ホオジロガモ・ミコアイサ・カワアイサ・マガン・ヒシクイなどが渡来し、留鳥のカルガモ・カイツブリなどとも合わせ、湖面を大いに賑わせています。

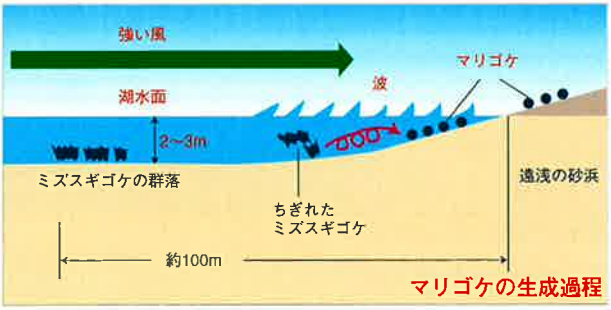
（国指定天然記念物）

白鳥は季節風に乗って北極海沿岸より6,000kmにも及ぶ旅をして猪苗代湖にやってきます。

❺猪苗代湖ミズスギゴケ群落（猪苗代湖北岸）

猪苗代湖のミズスギゴケは、シッポゴケ科のススキゴケ属で、学術名を「ヒロハノススキゴケ」といいます。酸性度が強くきれいな水の水深2～3mの湖底に生息しており、長さは大きいもので30cmにもなります。この蘚苔が波の作用によって引き抜かれ、球状を成したものがマリゴケとして時々湖岸に打ち上げられる事があり、これは学術上極めて珍しい現象です。（国指定天然記念物）

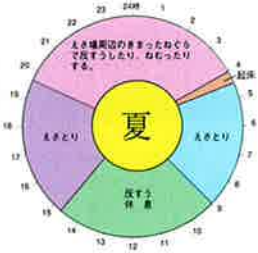
1996年4月、約20年ぶりに打ち上げられたマリゴケ（天神浜）



❻カモシカ（地域を定めず指定）

ニホンカモシカは、偶蹄目ウシ科ヤギ亜科シャモア族カモシカ属に分類される動物で、家畜や野生化したヤギを除けば、日本に棲む唯一のウシ科の動物です。本州の東北～中部地方にかけて広く分布していますが、一部近畿～九州の山岳地帯にも生息しています。

この様な中で猪苗代町の北部は、昭和五十四年に文化庁・環境庁・林野庁の合意のもとで設定された朝日・飯豊山系カモシカ保護区域の一部となっており、その生息状況と環境・被害調査が実施されると共に保護と対策が図られています。（国指定特別天然記念物）



カモシカの一日

カモシカの一日は一年を通じて、主にえさとりや反すう、休息、ねむるだけのとても単調な毎日をおくっています。

❼イトヨ（山潟）

トゲウオ科に属すイトヨは、背びれの前方に３棘を持ち、植物破片で巣を作る珍しい魚で、陸封型と降海型があり、前者のものは北海道・青森県・福島県・栃木県・福井県の湧水域に分布しています。本町山潟地区の堤や川にも陸封型のイトヨが生息しています。体長は5～7cmで、鱗はありませんが、体側に鱗板を持っています。

イトヨ

⑧姥ケ原・谷地平湿原（若宮・吾妻山）

浄土平より西へ約１時間登ると姥ケ原に着きます。雪解けの５月から秋にかけて高山植物が次々と可憐な花を咲かせ、その西端には石造の姥神様が鎮座しています。さらに１時間西へ下れば谷地平に着きます。ワタスゲをはじめとする高山帯の植物が短い夏を飾っています。湿原の片端に寺屋敷と呼ばれる一角があり、白鳳寺跡と伝えられています。

⑨蟹沢湿原（翁沢・菖花他）

蟹沢地区西方にある細谷地・山藁谷地・郭公花谷地の低層湿原で、オオミズゴケ・ヒメスギゴケが繁茂し、マット状の群落をつくっています。また春の早いショウジョウバカマからサギソウ・カッコウバナ・ワタスゲ・サワキキョウ・リンドウなど65科182種の草木層をみることができます。沼にはハッチョウトンボも生息しています。

（町指定天然記念物）

マルバシモツケ

谷地平湿原

イワカガミ

コケモモ

シシウド

オヤマリンドウ

ミズバショウ

ゴゼンタチバナ

ウメバチソウ

ショウジョウバカマ

⑩安達太良山ヤエハクサンシャクナゲ自生地（若宮・横向山）

ツツジ科の常緑低木で、安達太良山を中心としたハクサンシャクナゲ大群落の中にある重弁のものをヤエハクサンシャクナゲといいます。開花期は６～７月で、花の色は白色または淡紅色です。

（県指定天然記念物）

⑪大山祇神社杜叢（蚕養・大達沢）

達沢集落鎮守の杜として残された原生林で、神社の南側一帯にあります。ミズナラを主体とし、トチノキ・ミズキ・シナノキ・イタヤカエデなどの高木層、チシマザサ・エゾユズリハなどの低木層で構成されています。

福島県緑の文化財登録第346号

（県指定天然記念物）

⑫大鹿桜（おおしかざくら）（西峯）

樹齢1100年といわれ、高さ14mを計ります。会津五桜の一つで、八重小菊咲きのサトザクラですが、花の色が白色から次第に鹿の毛色に変化することから、この名がつけられました。社伝では村上天皇の天暦年中（947～957）勅使参拝のとき京都から持ってきて植えたとあり、現在のものはその子孫です。開花時期5月上旬

福島県緑の文化財登録第１号

（町指定天然記念物）

⑬鳥居杉（とりいすぎ）（西峯）

延喜式内社磐椅神社の拝殿の前に鳥居のように並んであるので、こう呼ばれていましたが、昭和六十一年の台風によって左側の杉は倒壊してしまいました。また現在ある右側の杉は幹が三本に別れ、そこに桜が生えていますが、この桜は縁結びの桜といわれています。高さ36m、推定樹齢800年を誇る大木です。

福島県緑の文化財登録第341号

（町指定天然記念物）

⑭白津（しろづ）からかさ松（まつ）（八幡・高原）

典型的な傘松の樹形で、樹高23m,幹周3.8mを計ります。推定樹齢450年で、根元には三宝荒神を祀った石の小祠があり、八手山城主三浦経連の重臣の邸内にあった木と伝えられています。

福島県緑の文化財登録第345号

（町指定天然記念物）

⑮大原観音の松（おおはらかんのん まつ）（若宮・大原）

観音堂の前にあり、樹高29m、幹周4.2m、推定樹齢300年の巨木です。この木は、元禄年間（1688～1704）に会津藩と二本松藩で、硫黄採掘と温泉の利権をめぐって境界の争いを起こした時、勝訴したお礼に植えられたものだといわれます。

福島県緑の文化財登録第342号

（町指定天然記念物）

⑯上祢次の辛夷（林南）

モクレン科のキタコブシで、樹高17m、幹周３mを計り、推定樹齢は300年です。この木は、その年に咲く花の数によって稲の豊作を占う樹木として古来より尊重され、村人によって大切にされてきました。樹下には馬頭観音の碑が9基祀られています。

福島県緑の文化財登録第343号
（町指定天然記念物）

⑱都沢の公孫樹（関都・堂脇）

六体地蔵尊を本尊とする地蔵堂の境内にある町内随一の大きさを誇る大イチョウで、樹高25m、幹周6.4m、推定樹齢700年といわれます。

福島県緑の文化財登録第350号
（町指定天然記念物）

⑳見祢の大石（見祢）

明治二十一年（1888）に磐梯山が爆発したとき、泥流とともに流されてきた巨石で、火山爆発の凄さを物語るものです。年々沈下しているといわれ、現在露出している部分は、高さ3.1m、幅8.2mと当時の半分ほどになってしまったといわれます。石質は輝石安山岩です。

（国指定天然記念物）

⑰一位（蚕養・山根）

天徳寺の境内にあるこの木は、樹高5.5m、推定樹齢700年の古木です。天徳寺は元白木城の北にありましたが、明治二十一年の磐梯山噴火後現在地に移りました。この木は当初残されましたが、数年後この木の精が住職の夢枕に立ち、「寺とともにありたい」とのことで、現在地に移植されたといわれます。

福島県緑の文化財登録第348号
（町指定天然記念物）

⑲百目貫の公孫樹（磐里・百目貫）

猪苗代三十三観音二十番札所である地蔵堂の前にあります。以前ここには東光寺という大きなお寺があって、その境内にあったと伝えられています。樹高21m、幹周5.2mを計り、推定樹齢1000年といわれますが、樹勢は極めて旺盛です。

福島県緑の文化財登録第349号
（町指定天然記念物）

㉑磐椅神社（西峯）

延喜式内社磐椅神社は、『文徳実録』巻七によれば斉衡二年（855）正月二十八日に陸奥国磐椅神に従四位下を加えるとあって、古くから会津嶺の神として最も崇拝され、その格式も高く、往時は社殿も壮麗で、神興の御渡や流鏑馬などの神事もおこなわれた郡内一の大社であったといわれます。祭神は山上より遷座した大山祇神、埴山姫神ですが、これは民話に登場する弘法大師に調伏された足長・手長明神のことです。

神道に造詣の深かった会津藩主保科正之も寛文十二年(1672)の八月に参詣し、没後末社としてこの地に葬ることを遺言しています。

㉒西峯遺跡（西峯）

磐椅神社の南側、表参道を中心とした東西200ｍ×南北300ｍに広がる縄文時代中・後期の遺跡で、昭和四十四年からの４回にわたる発掘調査によって、複式炉を持つ竪穴住居跡や大木7a～９・勝坂・安行式の縄文土器、石鏃・石槍・石斧・石匙・石錐・石箆・石錘・磨石・敲石・石皿などの石器、土偶・土板・石偶などの貴重な考古資料が発見されています。

（町指定史跡）

磐椅神社境内

㉓大神遺跡（磐根・大神新田）

旧石器時代最終末期・縄文時代前期の遺跡で、字大神地内の県道翁島停車場線の下側に広がる水田一帯がその範囲です。Ａ地点からは昭和四十二年に神子柴系の大きな石槍が発見され、Ｂ地点からは昭和六十三年に獲物を捕獲するためのＴピットと呼ばれる細長い落とし穴が多数検出されています。

㉔林口遺跡（川桁・林口）

大神遺跡と同様に旧石器時代の終末期・縄文時代前期の遺跡で、白津集落東側の畑地に立地しています。旧石器時代の石器には尖頭器・彫刻刀石器・スクレイパーがみられ、これらは倒木痕の堆積土中より一括して発見されていますが、恐らく当時は木の根元にデポ（埋納）として置かれていたものと考えられます。

林口遺跡出土の石器

㉕桜川遺跡（磐根・後手　土合）

桜川集落北側の畑地に立地する縄文時代前期の遺跡で、昭和五十三年の町史編纂に伴う調査の際に石棒やけつ状耳飾りなどの貴重な資料が発見されました。その後県道の拡幅工事によって竪穴住居跡や動物を捕えるための落とし穴が検出され、花積下層式・関山式・大木2a～3・5・6式・浮島式・諸磯式・興津式の土器と石鏃・石槍・掻器・石匙・石斧・有溝砥石・敲石・磨石・石核等の石器が出土しています。

㉖桜川南遺跡（磐根・烏帽子石　村南）

桜川遺跡の南側に隣接する縄文～平安時代の遺跡で、巨石や湧水のある場所を中心に各時代の遺物が多数発見されました。縄文・弥生時代の土器には茅山式・大木2a～6式・大洞C式・八幡台式併行のものがみられますが、石器の中には石核や剥片、未製品が多く、この場所で石器を製作していたことが窺われます。また縄文時代の石棒、古墳時代の土玉・土馬等の祭祀遺物の出土もみられる事から簡易な祭祀も執り行われていたものと考えられます。

㉗戸ノ口遺跡（翁沢・竹ケ袋）

昭和二十六年に戸ノ口集落西側の運河の岸より採集された石器は、両尖匕首と呼ばれる珍しい形の石器です。石質は頁岩で、長さ21.7cmを計り、両端には幅の広い槍先状の刺突部を設け、中間は幅を狭くして握られる様にしています。

戸ノ口遺跡出土の両尖匕首

㉘休場遺跡（翁沢・休場　小浜他）

翁島マリーナの西側にある湖岸へ突出した砂礫台地上に立地する縄文時代の遺跡で、江戸時代の書物『会津石譜』にも登場し、古くから周知されていた遺跡です。ここからは魚網のおもりとして使用したと考えられる側面に刻みを入れた小型の石錘が大量に発見されていて、縄文中期末～後期初頭に人々が猪苗代湖で魚を捕って生活していた事が分かります。また周辺の湖水中には湖底遺跡や埋没林が確認されています。

休場遺跡出土の石錘

㉙観音屋敷遺跡（堅田・入江村前　入江欠前　牛沼村前）

白鳥浜北側の水田に立地する平安時代前期の集落跡で、一町四方の区画溝や掘立柱建物跡・竪穴住居跡と共に土師器・須恵器など当時の生活用品も多数発見されています。建物跡は3間×2間の母屋と2間×2間の倉庫が多く、その柱穴には柱材がそのまま残っているものもあり、クリ材が多く用いられていました。また土器の表面には「万福・吉集・上万・十万・万・鏡」などの字を描いた墨書土器も区画溝より多数出土しています。

土器に書かれた文字

㉚三城潟家北遺跡（三ッ和・家北　村前）

翁島小学校北側の水田に立地する平安時代前期の集落跡で、多数の竪穴住居跡や掘立建物跡が検出されています。出土遺物は土師器・須恵器の他にも東海地方より搬入された灰釉陶器、北陸・北関東地方の影響を受けた弥生末～古墳初頭に属す土器の出土があり、当時他地域との交流が既にあった事が分かります。

耶麻郡の初見「続日本後紀」承和七年(840)三月四日の条
「陸奥国耶麻郡大領外正八位上勲八等、丈部人麿戸一烟、賜姓上毛野陸奥臣」

㉛猪苗代城跡（いなわしろじょうあと） 附鶴峰城跡（古城跡・古城町・茶園・南半坂・鶴峰）

磐梯山南麓の泥流地形突端部に築かれた平山城で、中世この地を支配した猪苗代氏代々の居城といわれます。猪苗代氏は文治五年（1189）奥州征伐の戦功により会津四郡を賜ったとされる佐原義連の孫経連を初代とし、葦名氏の同族とされています。しかし古くから独立性が強く、葦名氏とは度々争っており、摺上原の戦いでは盛國は伊達側、その子盛胤は葦名側について戦いました。

また本城は一国一城令の際も破却されず、近世を通じて城代が置かれ、幕末まで会津藩東の要として残されました。その後戊辰戦争によって建物等は焼失してしまいましたが、明治三十八年（1905）小林助治・才治父子二代を中心とした町内の有志が、私財を投じて桜やツツジを植栽し、東屋や観月橋を設けて町民憩の場として整備しました。

現在は町管理の公園となっていますが、土塁や石垣、空堀の一部が残されており、往時を偲ぶことができます。（県指定史跡）

猪苗代城跡の石垣

◀猪苗代城下絵図

㉜八手山城跡（はってやまじょうあと）（八幡・根岸・牧山）

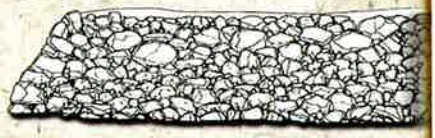
白津集落の北東にある山城で、川桁山の西へ張り出した尾根上に立地しています。梯郭式の山城で、麓の愛宕神社より峯上の風神を祭る小祠まで、土塁・空堀によって大小の郭が形成されています。年代は不明で『会津古墨記』には建久二年（1191）築城、亀城と称すとありますが、その形態から南北朝以降に築かれたものと考えられます。

八手山城跡遠景

猪苗代氏系図「耶麻郡誌」
初代・経連―二代・経泰―三代・盛経―四代・盛通―五代・盛泰―六代・時盛―七代・盛親―八代・盛政―九代・盛明―十代・盛光―十一代・盛行―十二代・盛景―十三代・盛國―十四代・盛胤

《猪苗代城跡 石垣ウォッチング》

◀二ノ郭櫓門跡



▲大手口多聞櫓台石垣▶
（A石垣）

▲帯郭法面石垣（D石垣）

本丸

北帯郭

稲荷神社

土塁

西帯郭

空堀

土塁

本丸

東門

D石垣

E石垣

井

C石垣

A石垣

B石垣

弁天

櫓

H石垣

I石垣

G石垣

二ノ郭

井戸門

西門

B石垣
弁天
虎口

搦手門

▲本丸隅櫓台石垣（H石垣）

水堀跡

井

南帯郭

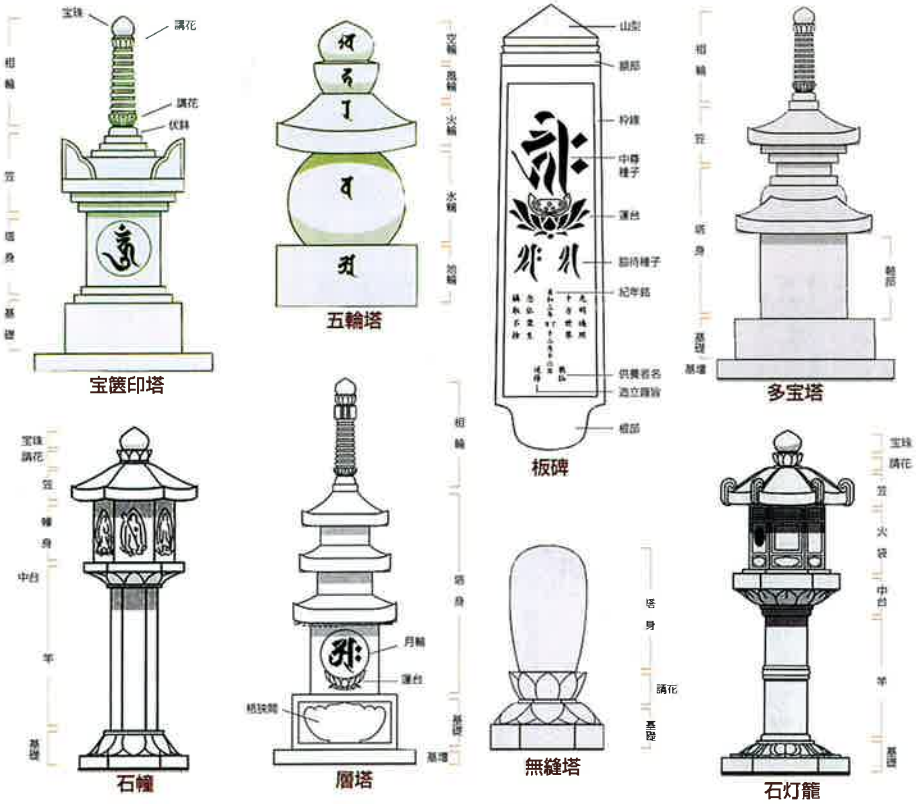
土塁

空堀

▲二ノ郭櫓門台西側石垣（F石垣）▼

▲二ノ郭櫓門台東側石垣（G石垣）▼

《石造物の種類》



㉝巨石にまつわる伝説（磐根・土田）

町内の各所には古くから信仰の対象となった自然石がみられ、そこには各種の伝説が残されました。土田地区の旧二本松街道沿いには、弁慶の硯石や殺生石、人取石などの名がつけられた自然石があり、人々に信仰されてきました。

弁慶の硯石

殺生石

人取石

㉞観音寺宝篋印塔（川桁・村北）

川桁観音寺の本堂前にあって、高さ1.8mを計る石造物です。塔身の銘文から応永十八年（1411）に建立されたものと考えられますが、以前は旧観音寺跡にあったもので、相輪と塔身は本来この塔のものではなかったといわれます。相輪は短く、笠の馬耳型の突起は先端が丸まり、浮彫りの蕨手は軽く反転し、塔身にはくぼみがあり、基礎は比較的高く、反花も形式化しており、古式の重厚さが窺えます。

（県指定重要文化財）

㉟鹿島神社宝篋印塔（金田・六角）

『新編会津風土記』巻五十に見え、応永年間（1394～1428）のものと推定されています。古くは金曲山宝性寺にありましたが、現在は鹿島神社境内に移されました。

高さ1.4mを計り、塔身の四面には二重の刻線で輪郭をつくり、蓮座の上に胎蔵界四方の種子が刻まれています。

（町指定重要文化財）

㊱島田板碑（磐里・町島田前）

この板碑は島田の墓地内にあり、嘉元三年（1305）に建立されたもので、高さ2.45m、幅1.45mを計ります。

ヤゲン彫りによって蓮座の上に、左側に金剛界の阿弥陀如来（𑖀）、右側に大日如来（𑖨）の種子を祀っています。

（町指定重要文化財）

㊲釜井板碑（長田・西畑）

この板碑は釜井の畑地内に建立されていて、正和二年（1313）の紀年が記されており、高さ1.30m、幅1.00mを計ります。左に金剛界（𑖀）、右に胎蔵界（𑖨）の大日如来の種子を蓮座に乗せています。

（町指定重要文化財）

㊳ネムノ長者屋敷層塔（磐根・草湯戸）

現在は諏訪神社の境内に移築されていますが、以前は東側の水田中にありました。そこは昔ネム次郎という長者の屋敷であったといわれます。

三重石造の層塔で、高さ1.26ｍ、幅0.55ｍを計り、台座には蓮弁の模様が施されており、鎌倉時代のものと推定されています。

㊴聖観音座像（川桁・村北）

観音寺の本尊仏で、度々の火災からも焼失を免れ、現在に至っています。年代は不明ですが、寄木造りで、容姿には運慶の作風がみられ、鎌倉期のものとみて誤りなく、また舟形光背と蓮華台座は江戸時代中期の作です。

猪苗代三十三観音一番札所。

（町指定重要文化財）

㊵銅造阿弥陀如来立像（裏町）

安穏寺の本尊で、像高39.1ｃｍを計る青銅製の仏像です。文永八年（1271）の紀年銘があり、長野善光寺の本尊を模したものと伝えられます。

この型の仏像は、鎌倉時代、復古主義の中で全国的に数多く造られましたが、頭に被る大きな螺髪が善光寺三尊模造仏としては早い時期の注目すべき一例です。

（国指定重要美術品）

㊶朝日向聖観音座像（八幡・若宮）

現在内野の観音堂に祀られている仏像は、その特徴から鎌倉期に推定されるものです。この観音像は重陽の節句に菊の花が供えられ、それを食べれば不老長寿に、枕の下に敷いて寝れば頭痛が治るといわれます。また身重にみえる形態から、安産・子授けの信仰があります。

猪苗代三十三観音九番札所。

（町指定重要文化財）

㊷ 紙本墨書猪苗代兼載八代集秀逸（中小松・西浜）

猪苗代兼載は猪苗代式部輔盛実の子として、享徳元年(1452)猪苗代の小平潟に生まれ、早くから仏の門に入って法号を興俊と呼んだ。和歌・連歌の天才に恵まれて十九才の若年で、心敬・宗祇らの河越千句に同座している。これらを機縁として心敬に師事、宗祇に兄事し、やがて京都に出て、連歌師として大成する。初号宗春、後兼載に改め、相園坊、耕閑軒と称した。三十九才で連歌師として最高の北野連歌会所奉行、宗匠の栄職につき、宗祇を助けて『新撰菟玖波集』を完成し、連歌史に不滅の金字塔を残している。文亀元年(1501)京を離れ、白河関を経て養子兼純が岩城の人である因縁もあって、岩城大館に草庵を構え、ここを中心に会津・岩代・下野・上野にわたり活躍した。特に文亀三年(1503)の顕天のための竹林講義や永正二年(1505)の葦名祈祷百韻、同三年(1506)の『源語秘訣』など会津滞在も見受けられる。永正六年(1509)五十八才の秋、中風治療のため古河に行くが越年し、永正七年(1510)六月六日、古河に没した。五十九才、墓は古河の北、栃木県都賀郡野木村大字野渡の満福寺にある。この八代集秀逸は兼載が永正四年(1507)五十六才の時、常陸国行方郡島崎の島崎武庫周隆という人に書き与えたものです。（県指定重要文化財）

八代集秀逸

小平潟天満宮

葦名兼載碑

兼載句碑

幹ノ梅

猪苗代兼載の句「花ぞ散りかからんとての色香かな」新撰菟玖波集
「ちりにしも花は又さくこの世かな」国歴第一

㊸ 摺上原古戦場（すりあげはらこせんじょう）（長田・不動 他）

会津侵略を狙う米沢城主伊達政宗は、予てより猪苗代盛國へ内応を勧めていたが、天正十六年（1588）に入ると葦名氏と伊達氏の争いは激化し、翌天正十七年五月四日には安積郡の安子島城、五日には高玉城を攻め落とし、仙道と会津を結ぶ交通の要衝を押さえました。これに対し会津黒川城主葦名義広は五月二十七日、佐竹・岩城氏らと共に伊達勢と対峙するため須賀川に出陣していましたが、六月四日夕刻、政宗は安子島を発し、夜更けに猪苗代へ入城しました。同日伊達方の動きを察知した葦名義広は須賀川より黒川へ戻り、夜更けに猪苗代に出陣しました。

葦名方総勢16,000騎は、摺上原の西、布藤・源橋・一ノ沢に陣取り、葦名義広は、布藤の南高森山に本陣を置きました。一方伊達方23,000騎は、摺上原の東に陣取り、本陣を八ケ森に置きました。

三忠碑拓本

合戦の火ぶたは六月五日早朝、葦名方の先陣富田将監勢が伊達方の先陣猪苗代盛國勢に攻めかかることによって切られました。当初将監勢は猪苗代勢を破り、更に原田・片倉勢を突き崩し、伊達方に内応した葦名の旧臣太郎丸掃部による横合からの鉄砲で多くの犠牲者を出しながらも孤軍奮闘して政宗本陣へ進撃していましたが、葦名方の二陣佐瀬勢、三陣松本勢、後陣平田勢は、兵を進めなかったばかりか軍見物の雑人たちが伊達勢に撃ち崩されたのをみて、葦名勢の敗軍と思い一度に崩れ退却してしまい、その際浮き足立った葦名勢は、猪苗代盛國が日橋川の橋を引いて置いたのを知らず、多数の兵が川に溺れて命を落としました。画して激戦の末葦名方は総崩れとなり、葦名義広は僅かな近習に守られ、黒川城に逃れました。

その後敗戦の責めを追った葦名義広は、六月十日城を棄て常陸の佐竹家に帰り、ここに葦名氏は滅亡し、会津の中世は幕を閉じました。

三忠碑碑文「三忠とは何をか謂ふ。金上盛備・佐瀬種常・常雄を謂ふ。云はゆる疾風に勁草を知り板蕩に誠臣を識るとは三士の若きもの是也。猪苗代盛國邑を以ゐて叛き、〜三士豈徳を地下に感戴せざらんや。抑々亦以て士氣を興起するに足らん。謹んで銘に換ふるに公の國雅を以てす。曰く。疾き風に勁き草葉を知るといふ古る言思い出づる古塚！

㊹三忠碑（長田・長田）

伊達政宗は宿敵葦名氏の所領会津を攻略すべく、天正十七年(1589)旧暦六月五日、磐梯山麓の摺上原に軍を進めました。この地の戦いに葦名義広の家臣金上盛備、佐瀬種常・常雄父子の三士は、主君の危急を救い、討死しました。

その忠誠のさまを後世に伝えるために八代会津藩主松平容敬公は、藩の儒学者高津泰に命じて撰文し、全文437字を唐の名筆家で熱血忠義の人物である顔真卿の書体から山内晋に集めさせてこれを刻ませ、嘉永三年(1850)十二月に建立しました。また周囲には旧二本松街道の松並木も残されています。

（町指定史跡）

㊺平盛胤の墓（八幡・水上）

亀ケ城最後の城主十四代猪苗代盛胤は、葦名累代の宗社を覆し父盛國が伊達政宗に内応しようとしたとき度々父を諫めましたが、逆に罪をきせられ追い出されました。摺上原の戦いでは葦名方として参戦しましたが、父の旗印をみて一旦退き、再び伊達の陣へ攻め込みましたが深手を負いました。葦名家滅亡後は蒲生氏にも仕えず、寛永十年(1641)内野村で七十七才の生涯を閉じました。村ではその墓の荒廃を防ぐため、文化二年(1805)より年々一夫の役を免除し、守り伝えています。

（町指定史

㊻五輪塔（五輪）

猪苗代盛胤の遺徳を偲び、百目貫村の臼井平右衛門が願主となって、明暦四年(1658)七月に建立されたものです。大小6基の五輪塔で、一番大きいものは高さが3mもあります。以前は旧二本松街道沿いにありましたが、国立磐梯青年の家建設の際、その入口付近に移されました。

（町指定重要文化財）

摺上原合戦図

㊼会津藩主松平家墓所（見祢山他）

会津藩主の墓所は初代保科正之が土津神社に祀られ、二代以降が会津若松市東山の墓所に葬られており、二代藩主正経は仏式で葬られていますが、初代及び三代以降はそれぞれ神式です。土津神社に祀られている初代藩主保科正之は、徳川二代将軍秀忠の子として慶長十六年(1611)に生まれ、高遠藩から最上藩を経て、寛永二十年(1643)会津に入封しました。慶安四年(1651)徳川四代将軍家綱の後見役として、幕府の実権を握り、このとき正之は四十一歳で、そののち亡くなるまでの二十年間幕政に携わることとなります。正之は神道に造詣が深く、吉川惟足より土津霊神の称号を受けました。亡くなる前の年に会津入りした正之は、磐梯山麓に家老たちとともに訪れて、猪苗代湖が一望できる磐椅神社近くの地に、死後その末社として葬るよう命じました。正之が寛文十二年(1672)十二月に亡くなると、遺言どおり「土津神社」造営が開始され、二年後の延宝三年(1675)に完成し、遷宮式が執り行われました。新装となった神社は日光東照宮にもたとえられるほどの豪華絢爛なものであったといいます。惜しくも創建当時の社は、明治維新の会津戦争のとき焼失してしまいました。その後会津戦争の難を逃れるため、斗南(今の青森県)に仮遷宮されていた御神体は土津神社再興のため明治七年(1874)猪苗代に帰り、明治十三年(1880)新たに社も完成し現在にいたっています。

（国指定史跡）

男橋と神前大鳥居

奥の院（奥津城）

会津藩歴代藩主　初代・保科正之―二代・保科正経―三代・松平正容―四代・松平容貞―五代・松平容頌―六代・松平容住―七代・松平容衆―八代・松平容敬―九代・松平容保

墳墓の上に置かれた鎮石

㊽ 保科正之公墳墓（見祢山）

保科正之の死に際し、葬儀大奉行に任命された家老の友松勘十郎は、陰暦正月六日に墳墓地を選定しました。最初に南北六十間、東西五十間を整地し、その真ん中に南北三十間、東西三十二間の柵を作り、四方に鳥居を立て、その中央に小屋を作り、棺を安置して三月二十六・二十七日の両日にわたって葬儀を執り行いました。その後棺の所に円墳を築き上げ、頂上に「土津神墳鎮石」と刻んだ八角形の鎮石を置きました。墳墓の南には「会津中将源君之墓」と刻んだ竿石が置かれ、さらに南にある土津神社のところまでの参道に玉石をしきつめ、神社の境内には正之の事績を書いた石碑を建てました。

（町指定史跡）

㊾ 土津霊神之碑（見祢山）

保科正之の履歴を刻んだ石碑で、碑文は山崎闇斎が撰文し、筆者は当時第一等の能筆家土佐左兵衛高庸である。高さ7.3mと墓碑としては日本最大のものであり、竿石は延宝元年(1673)中に荒取りをして、七月に引出し、翌年の二月十二日までかかって運びこんだ。それより碑石の細工にかかり、四月二十四日に作り上げた。次に四方に足場を組み、碑文を彫り始め、約五ケ月後の九月二十二日に墨入れを終え、完成した。碑文の文字数は1943字、文字の大きさは三寸(9cm)四方である。

（町指定重要文化財）

㊿ 田中正玄の墓（御廟）

会津藩の家老を三十四年間、城代を五年間務め、藩の基礎を固めた人である。正之公が自分の埋葬の地を見立てられるために見祢山に来られた際、正玄の墓に来られ、「正玄ここにいたか、自分も間もなくまいるぞよ」と言われ、ハラハラ涙を流されたのを見て、お供の家臣一同も涙を流し、正之公を仰ぎ見る者もいなかったという。

51 忠彦霊社（磐根・土田）

会津藩家老友松勘十郎氏興は正之の遺命を奉じて墳墓を築き、土津神社を造営したが、その神社経営の資として土田堰を造り、土田新田村を開拓した。村人はその恩義に報いるため忠彦霊社として氏興を祀った。

52 服部安休の墓（神道山）

正之に仕え、その命を受けて神道の研究を専らにし、土津神社初代の神官となった。因みに安休は森蘭丸の孫である。

㊸観音寺山門（川桁・村北）

入母屋型式の山門で、正面に唐破風をつけた様式を残しており、江戸初期の建立と推されます。特に欄間の浮き彫りの手法や柱の彫刻などには桃山建築の様式が窺われます。

（町指定重要文化財）

㊹小平潟天満宮本殿（中小松・西浜）

天暦二年（948）旧社地に建てられましたが、天和二年（1682）保科正経によって現在地に移されました。「流造」で、小規模ながら種々な意匠を浮彫、透彫等の手法を用いて表現しています。

（町指定重要文化財）

㊺楊枝一里塚（壷楊字・一里塚）

一里塚とは江戸時代に街道を行き交う人々のために、一里毎に道の両側に土を盛り、榎などを植えて距離を示す目印とした塚のことです。この一里塚は磐越自動車道の建設によって廃村となった楊枝集落から東へ150m入った倉手山の麓にあり、旧二本松街道の里程上にあります。

（町指定史跡）

㊻御上覧場一里塚（長田・長田）

会津における一里塚（この地方では壇と呼ぶ）は寛文七年（1667）から造られるようになりました。塚の上に榎を植えたので榎壇とするところもあります。この一里塚は若松から行程五里の旧二本松街道沿いにあり、不動集落の上方180mに位置しています。

（町指定史跡）

㊼旧二本松街道並木（長田・長田）

旧二本松街道は、江戸時代二本松城下と若松城下を結ぶ主要な街道であり、猪苗代では本道である下街道と裏街道として湖岸を経由する宿駅があった。下街道は藩界の楊枝峠から、楊枝宿、番所の設けられた壺下、関脇・都沢の宿駅から観音寺を通って、西館の舟渡し場で長瀬川を渡河して猪苗代城下に入り、城下からは土町より土田堰に沿って土田部落へ至り、大寺へと向かった。また上街道は猪苗代城下から島田・大在家・三城潟・西久保・戸ノ口・十六橋、関都から金曲・松橋・中ノ目・入江・烏帽子・三城潟～十六橋と湖岸の集落を経由する道があった。史跡として指定された三忠碑周辺は、一里塚や土田堰など当時の面影が良く残っている場所です。（町指定史跡）

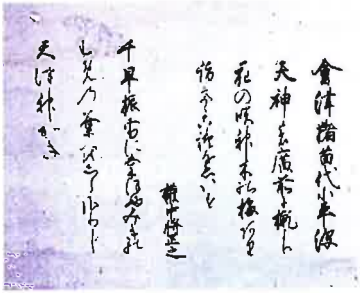
城下に残された道標

―中世― この二本松街道や福島街道が交差する猪苗代城下は、藩祖保科正之を祀る土津神社もあり、猪苗代領の中心地として栄え、城下の本町と新町では上十五（3・8・13日）、下十五（18・23・28日）と交代で、三と八のつく日に市が開かれた。

58 小平潟天満宮所蔵信仰資料（中小松・西浜）

学問の神様として知られれる小平潟天満宮は、代々領主の庇護を受け尊崇を集めてきたことから、数々の宝物が奉納され大切に伝えられてきました。これらは配流される怒りを表した「綱敷天神像」や禅宗の影響による「文字絵渡唐天神像」、明治の画家荻生天泉筆「束帯天神像」などの画像、「太政威徳天神」「南無天満大自在天神」などの神号、「保科正之和歌書」や猪苗代兼載筆「和歌三首」などの和歌、祝詞、宣旨等会津の天神信仰を知る貴重な資料となっています。

（町指定重要無形民俗文化財）



59 岡越後書状（堅田・廻谷地）

廻谷地の鈴木家は江戸時代肝入を勤めた家であったため、多くの古文書が保有されています。本資料は再蒲生時代の慶長十三年～元和八年（1608～1622）に城代を勤めた岡四郎右衛門佐内が、宗像彦太郎にキリスト教の信仰に励むよう促した書状であり、会津地方のキリシタン信仰を伝えるものです。熱烈なキリシタン信者であった岡越後は、幕府のキリシタン弾圧が厳しくなる中、元和8年新たに猪苗代城代となった甥岡左衛門佐の厳しい迫害を受け、やむなく棄教してこの地を去りました。大きさは縦14.5cm横43.7cmで、材質は紙本墨書です。

（町指定重要文化財）

60 西円寺喚鐘（新町）

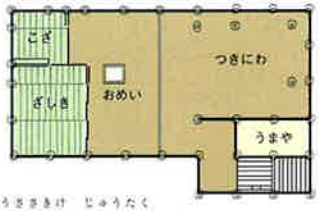
喚鐘は寺院において行事を行う際の合図として鳴らした小型の銅鐘で、仏具の一つです。銘には「明和元（1764）甲申季閏十二月吉旦　猪苗代町　西円寺六世圓空代　冶工早山掃部介安次」とあり、安次は十二代の人で、会津地方には土津神社銅燈籠二基(享保十四年)や柳津虚空蔵堂華瓶(寛延四年)、坂下恵隆寺鰐口(宝暦七年)など数多くの作品を残しています。西円寺は浄土真宗のお寺で、若松城下徒町浄光寺の末寺として河沼郡野澤村に開かれましたが、寛永十七年（1640）にこの地へ移りました。境内には戊辰戦争の際の西軍戦死者も埋葬されています。会津の早山氏は室町時代から江戸時代末まで連綿と続いた鋳物師で、その出自は天平勝宝四年（752）東大寺供鐘製作に関与した古い鋳物師であり、永正の頃（1504～）掃部助兼次と云う者が会津に移り活躍したと伝えられます。　（町指定重要文化財）

旧社地に残された「幹の梅」は、幹から直接花が咲く神木として尊ばれていました。幕政に関わり多忙であった保科正之は24年振りに会津に帰った時天満宮を訪れ、この神木と我が学問の大成を祈願し、「千早振雪にもにほふみきのむめの業をしらさりし天津神がき」と歌を詠まれました。

㊶旧馬場家住宅（三ツ和・前田）

南会津郡伊南村にあったものを昭和四十九年に復元移築したこの住宅は、「こざ」「おめい」「つきにわ」の関連間取など、多くの特徴を明示しています。建築年代を証明する資料は一切ありませんが、只見町旧五十嵐家住宅とほぼ同時期の江戸時代中期のものと考えられています。

（国指定重要文化財）



㊷旧佐々木家住宅（三ツ和・前田）

大沼郡川口村より昭和四十二年に移築。厩中門寄棟造、厩中門切妻、一部二階、茅葺で会津各地の名主層住居の中でも大規模な方に属す上層農民の家屋です。

時期は江戸時代中期と推定されています。

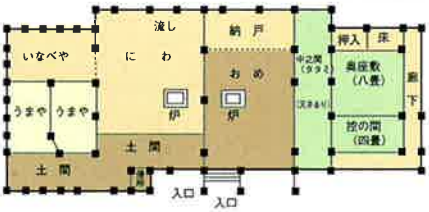
（県指定重要文化財）

「つきにわ」から「おめ・ざしき」を見る

㊸旧山内家住宅（古城跡）

祝儀帳によると文化八年（1811）十一月の建築で、直屋、寄棟造の茅葺屋根です。村役人層の住宅であったといわれ、町内砂川より昭和四十七年に移築復元しましたが、積雪等の適応を考慮して完全な原形復元はしていません。

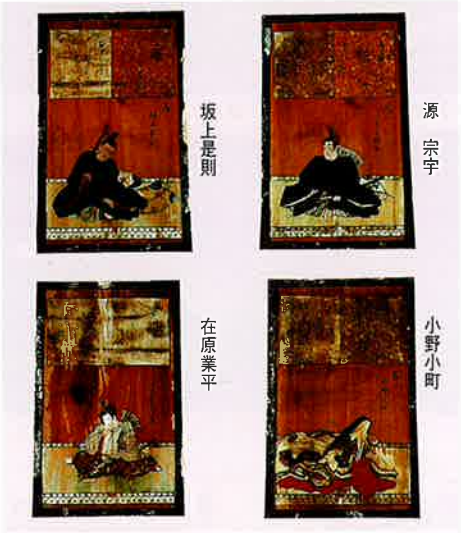
（町指定重要文化財）



⑥④磐椅神社彩色三十六歌仙（西峯）

磐椅神社に奉納されている三十六歌仙の額です。三十六歌仙とは平安時代の中期に藤原公任が『万葉集』以後の歌人36人を選び、数首ずつ歌をあげて選集を編んだものです。ここに掲げられた額は、猪苗代の人々が奉納したもので、一枚一枚の裏に奉納者の名前が書かれています。表の絵の作者は、若松の絵師大礒金三郎と明記されていて、この絵師についての経歴ははっきりしませんが、その画風から江戸時代後期の狩野派に属する人と思われ、絵の技量は高いものです。

（町指定重要文化財）



⑥⑤吾妻山大権現額（若宮・上町）

文政七年（1824）に吾妻山の遙拝所として建てられた銅屋の額で、聖護院宮一品盈仁親王の御染筆によるものです。

その後遙拝所は荒廃したため、現在は酸川野若宮八幡神社に天狗二面と共に大切に保管されています。

（町指定重要文化財）

坂上是則「みよしのの山の白雪つもるらし　ふるさとさむくなりまさるなり」(古今・巻六)
源　宗千「ときはなる松のみどりも春くれば　今ひとしほの色まさりけり」(古今・巻一)
小野小町「色見えでうつろふ物は世中の　人の心の花にぞ有りける」(古今・巻一五)
在原業平「世中にたえてさくらのなかりせば　春の心はのどけからまし」(古今・巻一)

⑥⑥旧修験榊原家所蔵修験資料（八幡・小原）

近世の当地方における修験資料で、仏像・仏画・護摩用具・修験の衣・袈裟・秘法集・版木・印類・幣束など225点が指定されています。同家はもともと本山派修験（天台系聖護院派）にて大蔵山金剛院円通寺と称し、古くは吾妻山を修行の場とし、飯豊山や出羽三山にも出かけていたといいます。家の奥座敷（祈願道場）には壇が設られ、不動明王を中心に大日如来（金剛界）・薬師如来・日光・月光などの諸仏を祀り、護摩壇もほぼ完全に残っていて江戸時代の地域信仰の面影をよくとどめています。

（県指定重要有形民俗文化財）

祈願道場

『葬具巻一』

⑰ 関脇優婆夷堂（せきわき　うばいどう）（関都・上ノ山）

社伝によれば昔関都村の主関氏は久しく嗣子が無いため、夫婦で鎮守の麓山宮に祈願して懐妊を得たという。しかし月満ちてお産に臨んだが、陣痛が７日７晩に及んでも産まれず悩み重ねていた所、忽然と老婆が現れ呪文を称えるとその功徳が現れ男子を安産しました。妻女はその霊異を崇め優婆と称し、その姿を描き寝所に祀りました。このことが世上に広まり、参詣する人が多いため、その子藤原重卿は多留良橋の元に茅舎を建て、婆鬼・翁鬼・地蔵の三像を安じて尊崇したが、これも霊験あらたかで、諸人の行願を成就したと伝えられています。現在の建物は大正十三年に新築されたものです。

観音開きの扉が付いた厨子

⑱ 麓山神社本殿厨子（はやまじんじゃほんでんずし）（千代田・村ノ内）

麓山神社は北高野集落の北東に位置し、羽山津見命を祀っています。神仏混淆の形態をとどめ鎌倉後期～室町前期の和様・唐様折衷の作風は猪苗代の神社仏閣中まれにみるものです。

⑲ 堀切の姥神像（ほりぎり　うばがみぞう）（三郷・下太子堂）

長瀬のおんばさまと呼ばれ、舟渡しの守護神として、また安産の神様として信仰されています。姥堂は廃仏棄釈で橋姫神社となり、昭和四十一年に現在地に移されました。この姥神像は吾妻山の山岳信仰に関わりがあったものと考えられ、長瀬川を流れてきたと伝えられていますが、作風は江戸中期以前の作とみられ、町内の姥神としては最も古く、彫りもしっかりしています。

（町指定重要文化財）

姥神像

⑳ 麓山神社左右大臣（はやまじんじゃ　さゆうだいじん）（関都・権現山）

安永三年（1774）に奉納された石像で、像に刻まれた願主や施主の名から、保科正之公が会津藩に信州高遠より入府した際、石工を伴ってきたことを証明する資料であると共に当地方の麓山信仰の深さを物語る貴重なものです。

（町指定重要文化財）

左大臣　藤原時平公

右大臣　菅原道真公

㉑天鏡閣・迎賓館（てんきょうかく　げいひんかん）（翁沢・御殿山 畑田）

長浜の西側、小高い丘の上に建つ天鏡閣は、有栖川宮威仁親王殿下が明治四十年(1907)に東北地方を御旅行の際、美しい猪苗代湖の景観を愛でられ、翌年御別邸としてこの地に建設されたものです。ルネッサンス様式を基調とした洋風の建造物で、スレート葺で八角塔屋を持った木造2階建の本館と従業員宿舎として建設された木造2階建寄棟造の別館、煉瓦造の表門が指定されています。迎賓館は威仁親王妃慰子殿下が、その隣地に和風の別邸として大正十一年(1922)に建てられたもので、木造平屋建、銅板葺の建物です。有栖川宮薨去後高松宮宣仁親王に引き継がれ、さらに昭和二十七年高松宮家より県に下賜され、今日に至っています。天鏡閣の名は李白の句「明湖落天鏡」に由来するといわれ、明治四十一年大正天皇が行啓で5日間滞在された際に命名されました。

（国指定重要文化財）

天鏡閣本館

迎賓館

㉒十六橋（じゅうろくきょう）（翁沢・竹ケ袋）

文化六年(1809)に完成された『新編会津風土記』によれば、空海が流れの中に塚を築き、丸木を架けて十六断の橋としたのが始めとされ、その後度々朽ちるので、天明六年(1786)に材木石を用いて、勾欄の付いた23断の石橋としました。

現在のものは大正初期の猪苗代水力電気株式会社が発電所の建設に際して水利調節のために築いたストーニー式の水門で、その際石橋は取り除かれ、昔の面影は無くなりました。新しい橋の西側には安積疏水の設計者であるオランダ人ファンドールの銅像と戸ノ口水門事務所があります。

㉓硫黄採掘廃坑跡（いおうさいくつはいこうあと）（蚕養・沼尻山）

安達太良山の噴火口沼ノ平より西に流れる硫黄川沿いには、硫黄鉱の露頭があり、古くより硫黄の採取と製錬が行われてきましたが、現在は沼尻温泉の源泉湧出地、湯垢の採取場として利用されています。また安達太良登山の道筋でもあり、周囲には白糸の滝や障子岩・屏風岩・胎内岩などの景勝地もみられます。

⑭ 野口英世生家（三ッ和・前田）

医学上、輝かしい業績を残した野口英世博士は、明治九年十一月九日三城潟に生まれました。その生家は博士の遺品と共に現在財団法人野口英世記念館で、大切に保存されています。建物からは文政六年(1823)の棟札が出ており、茅葺屋根の平屋建で、猪苗代地方における当時の典型的な貧農の家屋ですが、博士が左手に火傷を負った囲炉裏、上京の際に決意文を刻んだ床柱などが当時のまま残されていて、その人間像を考える上で極めて価値の高いものです。

上京に際し床柱に刻んだ決意文
「志を得ざれば再び此の地を踏まず」

生家

幼少の時、火傷を負った囲炉裏

⑮ 算額（中小松・西浜）

学問の神様菅原道真公をお祀りしている小平潟天満宮には、明治初期に和算家が自己の作った数学の問題や解答を書いて奉納した算額があります。その内容は代数・連分数・差々数列・整数などの問題で数学的価値が高く、また彩色された図形は美術的にみても高い価値があります。

（町指定重要文化財）

―中央図形の題意―
今図のように正四角錐がある。中に全球・大球各1コ、小球4コが入っている。全球の直径、小球直径それぞれ若干のとき大球の直径はいくらか。
福島県和算研究保存会発行「福島県の算額」(1989.8.30)より

⑯ なつかしの軽便鉄道（※緑の村管理センター　長田・東中丸）

大正二年から昭和四十四年まで川桁駅より沼尻駅までの15.6kmを46分で走っていた軌道で、当時は唯一の交通機関として、沼尻鉱山の硫黄や温泉の湯治客を運んでいました。当初は馬車でしたが、間もなく蒸気機関車・ガソリンカー・ディーゼル機関車となり、昭和二十八年から廃止まで営業していました。

機関車および客車は、現在緑の村管理センターに展示されています。

内野を走るガソリンカー

当時の乗車券

沼尻に停車するディーゼル機関車

沼尻鉄道沿線にあった駅
川桁～白津～内野～会津下館～荻窪～白木城～会津橋ノ口～名家～酸川野～木地小屋～沼尻

一民俗文化財一

⑦⑦ 会津の製蠟用具と蠟釜屋（三ツ和・前田）

会津の製蠟は古くから盛んで、藩政時代には漆樹の栽培奨励と製品の専売制によって生産量が高まり、漆器と共に蠟燭は全国的にその需要がありました。収集された資料は967点に及び、材料の採集用具や運搬用具や蠟燭などその生産工程をを知ることができます。また蠟釜屋は高郷村小ケ峰より移築復元したもので、昭和四十年頃まで共同使用されていたものです。

これらは仕事着・寝具のコレクションと共に(財)会津民俗館で所蔵し、一般公開されています。（国指定重要有形民俗文化財）

製蠟用具

⑦⑧ 会津の仕事着コレクション（三ツ和・前田）

江戸時代以降の仕事着476点が収集されています。上衣はジバン・ハンキリ・カタチガイなどと呼ばれ、サシコの模様によってその変遷と地方差が対比できます。下衣も縞の模様によって対比され、この他まえかけ・かぶりもの・履物も保存されています。（県指定重要有形民俗文化財）

サシコモッコウとボロサシコ

⑦⑨ 会津地方の寝具コレクション（三ツ和・前田）

布団類66点、夜着類11点、炬燵がけ９点、寝箱２点、枕類15点の合計103点が収集されています。布団の綿には苧ぐそ・藁・ぜんまいが使用され、布団皮は麻が主流でしたが後木綿に変わっていきました。枕には引出しのついた木製の箱枕や中身にそば殻・小豆・籾殻を使ったものがみられます。

（県指定重要有形民俗文化財）

寝箱

⑧⑩ 西久保彼岸獅子舞（磐根・西久保）

この獅子舞は昭和十三年に復興され、一時戦争で中断しましたが昭和二十三年より再び行われ、毎年春の彼岸に住民の無事息災と仏の供養を祈念して寺社に奉納されています。舞には「通り」から「弓くぐり」まで十一番があり、笛方・太鼓方の他に弓持・棒持・付添で構成されます。獅子頭の両眼は月輪・日輪を表し、頭には二十四星を戴き、角は降魔の利、牙は悪役を防ぐ架といわれ、着物は白地に鳳凰、袴は黒地に波千鳥の模様を用いています。これらは門外不出で、村内居住の長男のみに継承されており、現在は西久保彼岸獅子保存会によって管理運営されています。

（町指定重要無形民俗文化財）

幕掛り

西久保彼岸獅子舞の舞名　一、通り　二、幕掛り　三、獅子揃へ　四、一人舞　五、のめり　六、岡崎　七、花見　八、とうとのめ　九、ながし　十、棒舞　十一、弓くぐり

㊶中ノ沢こけし

中ノ沢は古くからの温泉で、大正三年以降木地製品を扱う土産物店や木地工場ができ、遠刈田系と土湯系の工人が数多く出入りしました。土湯系の工人で、宇都宮生まれの(故)岩本善吉・芳蔵親子は大正十年から中ノ沢に住み、盆や茶壺などを作っていましたが、２年後にはこけしを手がけ、大きな目と鼻・目の回りを赤く塗る「たこ坊主」と愛称されている独特のこけしを作りました。現在もその流れを継ぐ工人が町内に在住しています。(故)本多信夫は芳蔵の木地に描彩をしていましたが、昭和十年ごろからこけしを作り始め、戦後は岩本芳蔵について木地修業をした養子洋と共に一重瞼の可愛い表情で、胴に牡丹の花を描く独自の型のこけしを作りました。瀬谷重治は製材工として働いていた昭和二十八年、職人仲間の芳蔵に弟子入りし、善吉型のこけしを作り、昭和四十七年からは長男幸治も父について木地挽修業をし、面描鋭く気迫が感ぜられる善吉型のこけしを継いでいます。柿崎文雄は昭和三十九年から木地修業し、鳴子系の高亀型こけしを作っていましたが、四十二年に芳蔵の許可を得て善吉型を作るようになりました。また町外在住の「善吉型」こけし職人としては、渡辺長一郎（郡山市）、斉藤徳寿・良寿(会津若松市)らがいます。(敬称略)

(故)本多信夫作品たこぼうず

こけしを挽く本多洋氏

㊷いなわしろの民話

猪苗代町には「足長・手長の物語」・「弁慶の硯石」などの昔話や伝説が、現在200余話ほど残されています。これらの民話が埋もれてしまわないように、昭和五十四年には『いなわしろの民話』(全３巻)が出版されています。

「片目の爺さま」

昔磐梯山の麓の村に爺と婆がつつましく暮らしていました。さて、ある日暗くなってから、山さ行った爺が帰ってきた。出迎えた婆が、ふと爺の顔を見ると、たまげてしまった。爺は左の目がつぶれている片目なのに、今夜は左の目だけらんらんと輝かせて、右の目はしょんぼりくぼんでいるではないか。「ははあ、これは狐が爺に化けてきたんだなあ」と、婆はすぐ気がついた。それでその爺に「爺また酒に酔って帰ったな。酔うずどいつもの癖で俵さ入って寝んだべえ」すると、爺は「文句つけねえで、俵布団だせ」って。俵さ入って寝っちまった。「めんどくせえなー、縄でしばんのが」ったら、俵の中から眠そうな声で「うだー」そして、こころよさそうに婆に縄をかけられた。「縄かけたげんど、火棚の上であったまんのがー」って言ったらこっくりした。

婆は力を振り絞ってがらに、俵の爺を囲炉裏の上の火棚にかつぎ上げて、動かぬように火棚に縛ったと思うと、表から生松葉をおっこんできて、どんどん下からいぶした。いぶされっと、化けていても狐はついにしっぽ出すって、長いしっぽをよー。

そこさ、今度は右の目輝かせて、本物の爺やが帰ってきた。左と右をとっちがえて化けたばっかりに、狐はキツネ汁にされて人間様に食われてしまったど。

― 年中行事 ―

1月　1日元朝参り　13日初市　14日団子さし・かせどり(小田)　15日歳の神・成人式　17～20日山の神講
25日初天神(小平潟天満宮)

2月　3日節分　第2土曜日ウィンターフェスティバル(猪苗代スキー場)　8日針供養　15日釈迦の涅槃会(各寺院)

3月　3日雛の節句　18日彼岸　21日弘法念仏(各部落)　18～24日彼岸獅子舞(西久保)　25日数珠ひき(各部落)

4月　8日花祭り(釈迦の誕生祭)　10日大般若(各部落)　上旬白鳥渡去　下旬観音寺川桜並木開花

5月　3日土津神社春季例祭・安達太良山山開き　5日端午の節句　6日雷神祭り(各地区)　第2日曜日磐梯山山開き
上旬田植・亀ケ城公園桜開花

6月　6日雷神祭り(南真行)　第1土・日曜日猪苗代フェスティバル　7日地蔵祭り(各地区)
15日磐梯山参詣・牛頭天王祭(各地区)
中旬原生アヤメ保護池アヤメ開花(関都)　25日蚕養祭り(小田)

7月　7日七夕祭り　11日盆棚つくり　13～17日お盆　中旬猪苗代湖浜開き
24・25日小平潟天満宮例大祭　最終土・日曜日磐梯まつり

8月　1日八朔(各地区)・濡れ地蔵祭り(安穏寺)・若宮八幡祭り(酸川野)
15日豆名月　中旬ひまわり畑(町営牧場)　23日地蔵堂の百萬遍(各地区)
・地蔵祭り(北窪)　25・26日諏訪明神祭礼　各村社祭礼

9月　第1日曜日町民大運動会　7日麓山ごもり　13日芋名月
中旬コスモス畑開花(町営牧場・翁島)・そば畑開花(各地区)
21日土津神社秋季例祭　下旬猪苗代湖畔健康マラソン大会

10月　10日むじなの祝言(各地区)　上旬稲刈り・白鳥渡来　20日恵比寿講

11月　1日神迎え　15日七五三　23日金餅(各地区)

12月　8日八日講(大在家)　上旬スキー場開き　15日恵比寿様の年とり(各地区)
中旬冬至(小豆南瓜を食す)24～27日煤払い　28日節の餅搗き　31日年とり(大晦日)・除夜の鐘(鐘突き堂)

花見

磐梯まつり

土津神社

十三市

町民憲章（昭和49年11月3日制定）
一、山と湖と緑と野鳥を愛する心で、公害のない住みよい町をつくりましょう。
一、老人と子供を大切にし、親切の輪を広げ、人情味のある町をつくりましょう。

― 指定・登録文化財 ―

（平成17年5月現在）

国指定重要文化財

No.	種別	名称	所有・管理者	所在地	☎(0242)	掲載番号
1	天然記念物	猪苗代湖ミズスギゴケ群落	国・猪苗代町	猪苗代湖北岸		5
2	重文／工芸品	太刀（銘吉房）	土津神社	猪苗代町見祢山1-13・2・3	62-2160	
3	重美／彫刻	銅造阿弥陀如来立像	安穏寺	猪苗代町字寡町437	62-2713	20
4	天然記念物	見祢の大石	個人・猪苗代町	猪苗代町見祢534B-1		20
5	〃	猪苗代湖のハクチョウ及びその渡来地	国・猪苗代町	猪苗代湖北岸		4
6	重文／建造物	旧馬場家住宅	（財）会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田33-1	65-2600	66
7	〃	天鏡閣　本館・別館・表門	福島県	猪苗代町大字翁沢字御殿山108-14	65-2811	71
8	重有民俗	会津の製蝋と蝋釜屋	（財）会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田33-1	65-2600	77
9	史跡	会津藩主松平家墓所	個人・土津神社	猪苗代町見祢山1-13・2・3	62-2160	47
10	特別天然記念物	カモシカ		地域を定めず指定		6
11	建造物	迎賓館	福島県	猪苗代町大字扇沢字畑田1072-4	65-2855	71

県指定重要文化財

1	天然記念物	安達太良山ヤエハクサンシャクナゲ自生地	農林水産省	猪苗代町大字若宮字横向山ほか		10
2	重文／工芸品	太刀（銘陸奥大掾三善長道）	土津神社	猪苗代町字見祢山1-13・2・3	62-2160	
3	重文／建造物	観音寺石造宝篋印塔	観音寺	猪苗代町大字川桁字村北2347	66-2332	34
4	重文／工芸品	一太刀　長道　兼定　護共作之 〃　兼友　為直　道辰　護共作之 〃　兼友　為直　道辰　長道　兼氏　護共作之 〃　道長　兼定　道辰　共護鍛之 一刀　陸奥会津住下坂為利 一刀　若狭守二代目藤原道辰作	土津神社	猪苗代町字見祢山1-13・2・3	62-2160	
5	重文／絵画	絹本著色土津神社霊神画像	土津神社	猪苗代町字見祢山1-13・2・3	62-2160	
6	重文／書跡	紙本墨書猪苗代兼戴書八代集秀逸	小平潟天満宮	猪苗代町大字中小松字西浜甲1615		12
7	重文／建造物	旧佐々木家住宅	（財）会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田33-1	65-2600	62
8	重有民俗	会津の仕事着コレクション				78
9	〃	会津地方の寝具コレクション				79
10	〃	旧修験榊原家所蔵修験資料	会剛院	猪苗代町大字八幡字小原101	66-3576	81
11	天然記念物	達沢大山祇神社杉叢（達沢原生林）	吾妻財産区	猪苗代町大字吾妻字大達沢乙3695		11
12	史跡	猪苗代城跡附鶴峰城跡	猪苗代町	猪苗代町字古城跡7150-1	62-2111	41

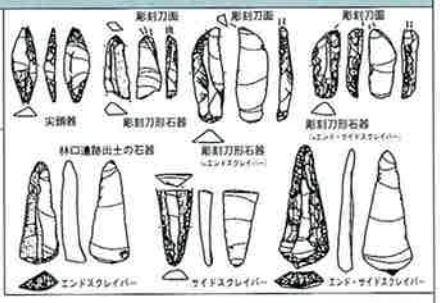
町指定重要文化財

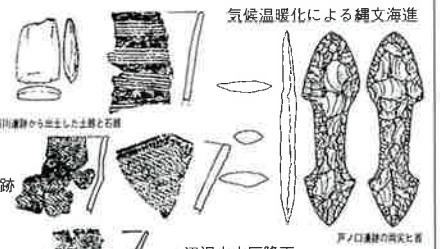
1	重文／彫刻	聖観音座像	観音寺	猪苗代町大字川桁字村北2347	66-2332	39
2	重文／建造物	鷲山神社本殿厨子	北高野区	猪苗代町大字千代田字村ノ内丙177		68
3	重文／工芸品	算額	小平潟天満宮	猪苗代町大字中小松字西浜甲1615		75
4	重文／建造物	板碑（釜井）	釜井区	猪苗代町大字長田字西畑91		35
5	〃	板碑（島田）	島田区	猪苗代町大字磐里字島田前2852		35
6	天然記念物	一位	天徳寺	猪苗代町大字蚕養字山根乙573	64-2205	17
7	〃	大鹿桜	磐椅神社	猪苗代町字西峯6203	62-4109	12
8	史跡	三忠碑	猪苗代町	猪苗代町大字長田字長田439	62-2111	41
9	〃	平盛嵐の墓	内野区	猪苗代町大字八幡字水上5840		45
10	重文／建造物	五輪塔	猪苗代町	猪苗代町字五輪	62-2111	45
11	重文／建造物	旧山内家住宅	〃	猪苗代町字古城跡7150-2	62-2111	63
12	重文／工芸品	吾妻山大権現額	吾妻山神社	猪苗代町大字若宮字上町甲1463		55
13	重文／建造物	観音寺山門	観音寺	猪苗代町大字川桁字村北2332-2	66-2332	53
14	〃	小平潟天満宮本殿	小平潟天満宮	猪苗代町大字中小松字西浜甲1615		54
15	史跡	楊枝一里塚	個人	猪苗代町大字蚕福字一里塚		56
16	天然記念物	大原観音の松	大原区	猪苗代町大字若宮字大原丙261-1		15
17	〃	白津からかさ松	白津区	猪苗代町大字八幡字高原5024		14
18	〃	百目貫の公孫樹	百目貫区	猪苗代町大字磐里字百目貫687-1		19
19	〃	島居杉	磐椅神社	猪苗代町字西峯6203	62-4109	13
20	史跡	西峯遺跡	個人	猪苗代町字西峯6195ほか		2
21	重文／工芸品	鷲山神社左右大臣	鷲山神社	猪苗代町大字関都字権現山2119		70
22	重文／建造物	鹿島神社宝篋印塔	個人	猪苗代町大字金田字六角3624		35
23	天然記念物	蟹沢湿原	蟹沢区	猪苗代町大字翁沢・冨花ほか		9
24	史跡	御上覧場一里塚	個人	猪苗代町大字長田字長田114		55
25	重文／工芸品	磐椅神社彩色三十六歌仙	磐椅神社	猪苗代町字西峯6199	62-4109	64
26	天然記念物	上祢次の辛夷	祢次区	猪苗代町字林南1518-10		16
27	重無民俗	西久保彼岸獅子舞	西久保彼岸獅子保存会	猪苗代町大字磐根字西久保		80
28	史跡	保科正之公墳墓	土津神社	猪苗代町字見祢山1-13・2・3	62-2160	46
29	重文／建造物	土津霊神之碑				49
30	重文／彫刻	朝日向聖観音座像	内野区	猪苗代町大字八幡字若宮84-1		41
31	〃	堀切の能神像	伯父ヶ倉区	猪苗代町大字三郷字下太子堂 305		69
32	天然記念物	都沢の公孫樹	都沢区	猪苗代町大字関都字堂脇2667-1		18
33	重文／古文書	猪苗代盛国書状	隋松院	猪苗代町大字三郷字舘ノ内8291-1	66-3355	
34	重文／建造物	土津神社境石	土津神社	猪苗代町字赤埴山1-1	62-2160	
35	重文／工芸品	（伝）空海筆鷹額	土津神社	猪苗代町字見祢山1-13・2・3	62-2160	
36	重文／工芸品	西円寺喚鐘	西円寺	猪苗代町字新町4899	62-2833	
37	史跡	旧二本松街道松並木	猪苗代町	猪苗代町大字長田字長田439	62-2111	57
38	重有民俗	小平潟天満宮所蔵信仰資料	小平潟天満宮	猪苗代町大字中小松字西浜甲1615		58
39	重文／古文書	岡越後書状	個人	猪苗代町大字櫻田字廻谷地2505		59

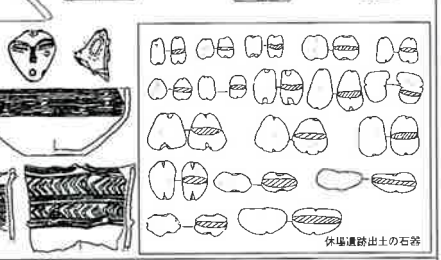
一、郷土の歴史を尊重し、若い力でさらに美しい豊かな町をつくりましょう。
一、明るい町政のもとに健康で働き、活気ある平和な町をつくりましょう。
一、教養を高め、文化を育て、礼節を守る町民になりましょう。

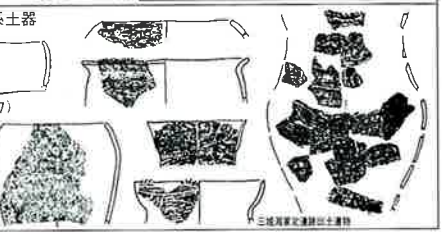
― 歴史年表 ―

年代	時代	時期	遺跡	主な出来事・出土遺物
BC30000	旧石器時代	後期	笹山原 No.8遺跡（会津若松市）	
			小石ケ浜（会津若松市）	
			大神遺跡	
			林口遺跡	（土器形式）
BC10000	縄文時代	草創期		隆起線文系
				瓜形文系
BC8000		早期	大神東遺跡	撚糸文系
			西谷地遺跡	押型文系　日計系
			高塚山遺跡	沈線文系　田戸下・上層
			休場遺跡	貝殻文系　常世Ⅰ・Ⅱ
			湯達沢遺跡	条痕縄文　表裏縄文系
BC4000		前期	桜川遺跡	花積下層
			戸ノ口遺跡	大木1　関山
			桜川遺跡	大木2a 大木2b　黒浜
			桜川遺跡	大木3　諸磯a　浮島
			大神東遺跡	大木4　諸磯b
			桜川遺跡	大木5a　諸磯c　興津
				大木5b
			五十軒遺跡	大木6　十三菩提
BC3000		中期	内野遺跡	大木7a 五領ケ台
			西峯遺跡	大木7b 阿玉台　勝坂
			法正尻遺跡	大木8a 加曽利E1
			西部開拓遺跡	大木8b 加曽利E2
			中道D遺跡	大木9　加曽利E3
			白津遺跡	大木10　加曽利E4
BC2000		後期	島田堤遺跡	綱取Ⅰ　称名寺　三十稲場
			田茂沢遺跡	綱取Ⅱ　堀之内Ⅰ
			登戸遺跡	堀之内Ⅱ
			酸川野遺跡	宝ケ峯　加曽利B
			くるみ沢遺跡	曽谷
			白津遺跡	新地　安行Ⅰ・Ⅱ
BC1000		晩期	休場遺跡	大洞B
			田茂沢遺跡	大洞BC
			蟹沢浜湖底遺跡	大洞C1
			中原向遺跡	大洞C2　亀ケ岡文化圏
				大洞A
			白津遺跡	大洞A′
BC400	弥生時代	前期		工字文・変形工字文系土器　遠賀川系土器
			田茂沢遺跡	今和泉
BC200		中期	白津遺跡	南御山Ⅰ・Ⅱ桝形囲
			休場遺跡	二ツ釜　円田　奴国王後漢に朝貢（57）
			蟹沢浜湖底遺跡	桜井Ⅰ・Ⅱ十三塚
AD100		後期	くるみ沢遺跡	天王山
			惣座遺跡	八幡台　卑弥呼魏に遣使（239）
			三城潟家北遺跡	十王台

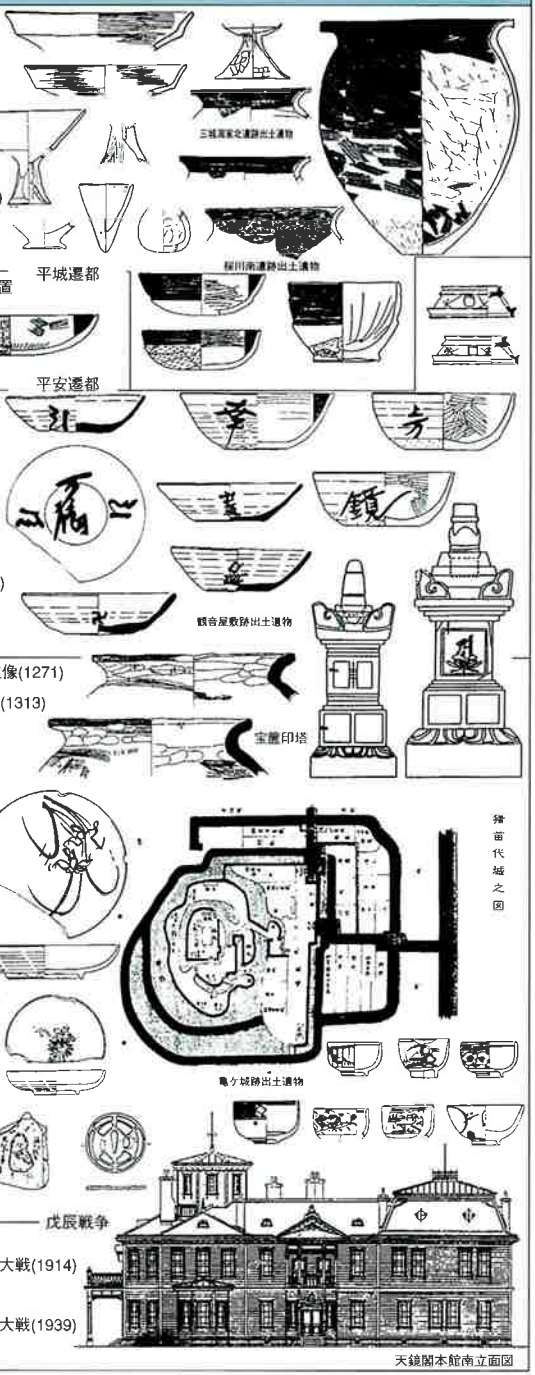








年代	時代	時期	遺跡	主な出来事・出土遺物
AD300	古墳時代	前期	三城潟家北遺跡	月影
			水抜遺跡	塩釜　会津大塚山古墳（会津若松市）
AD400		中期	観音屋敷跡	倭の五王
			三城潟家北遺跡	南小泉
AD500		後期		佐平林　大化の改新(645)
				舞台　壬申の乱(672)
			休場遺跡	栗囲　大宝律令(701)
AD710	奈良時代		休場遺跡	白河・勿来関設置
			桜川南遺跡	国分寺下層
				蝦夷征討
AD794	平安時代	前期	観音屋敷遺跡	恵日寺開基(807)
			登戸遺跡	耶麻郡初見(840)
			古屋敷遺跡	磐椅神社従四位下(855)
AD900		中期	三城潟家北遺跡	小平潟天満宮勧請(948)
				表杉ノ入
				鶴峰山西勝寺開山(996)
AD1000		後期		前九年の役(1051～1062)
				平泉中尊寺建立(1126)
				白水阿弥陀堂建立(1160)
AD1192	中世	鎌倉	白津八幡山経塚	安穏寺銅造阿弥陀如来立像(1271)
				島田板碑(1305)釜井板碑(1313)
		南北朝	八手山城跡	猪苗代氏支配
				観音寺宝篋印塔(1411)
		戦国	猪苗代城跡	
				鹿島神社宝篋印塔
AD1568	近世	安土・桃山	田辺館跡	摺上原の戦い(1589)
				徳川幕府成立(1603)
		前期	登戸遺跡	五輪原五輪塔(1658)
				土津神社(1675)
			廻谷地館跡	小平潟天満宮本殿(1682)
		中期		享保の改革(1716)
				寛政の改革(1787)
				旧山内家住宅(1811)
		後期		磐椅神社三十六歌仙
			入江観音堂経塚	天保の改革(1841)
				三忠碑(1850)
		幕末期	猪苗代城跡	ペリー来航(1853)
AD1868	近代	明治		磐梯山爆裂(1888)
		大正		天鏡閣(1908)第一次世界大戦(1914)
				耶麻軌道営業開始(1913)
		昭和		迎賓館(1922)第二次世界大戦(1939)
				町村合併(1955)



一探検マップ

※現在湯垢採取場から沼ノ平にかけては、火山ガスが発生していますので注意が必要です。

磐梯山
1818.6
磐梯町
昭和の森
摺上原
青年の家
Aコース
翁島
三ツ和
長田
I.C
堅田
中小松
金田
翁沢
翁島港
長浜
日橋川
翁島
天神浜
長瀬川
月輪
Cコース
志田浜
安積疏水
上戸浜
猪苗代湖
会津若松市
0
5Km
至会津若松
小田
三郷
長瀬
八幡
川桁
関都
壺楊
月輪
Bコース
山潟
五万堂山
田子沼
中山峠
磐越自動車道
磐越西線
布森山
達沢
川桁山
1413
大滝山
1370
郡山市
至郡山
磐梯グリーンライン
両張って
歩いてね！
40 銅造阿弥陀如来立像
41 朝日向聖観音座像
42 紙本墨書猪苗代兼載八代集秀逸
43 摺上原古戦場
44 三忠碑
45 平盛胤の墓
46 五輪塔
47 会津藩主松平家墓所
48 保科正之公墳墓
49 土津霊神之碑
50 田中正玄の墓
51 忠彦霊社
52 服部安休の墓
53 観音寺山門
54 小平潟天満宮本殿
55 湯桧一里塚
56 御上覧場一里塚
57 旧二本松街道松並木
58 小平潟天満宮所蔵信仰資料
59 岡越後書状
60 西円寺喚鐘
61 旧馬場家住宅
62 旧佐々木家住宅
63 旧山内家住宅
64 磐椅神社彩色三十六歌仙
65 吾妻山大権現額
66 旧修験伸原家所蔵修験資料
67 関脇優婆夷堂
68 麓山神社本殿厨子
69 堀切の姥神像
70 麓山神社左右大臣
71 天鏡閣・迎賓館
72 十六橋
73 硫黄採掘廃坑跡
74 野口英世生家
75 算額
76 なつかしの軽便鉄道
77 会津の製蝋用具と蝋釜屋
78 会津の仕事着コレクション
79 会津地方の寝具コレクション
80 西久保彼岸獅子舞
81 中ノ沢こけし

ー史跡探訪モデルコースー

■Aコース（磐梯山麓ハイキング）

（猪苗代駅）～㉛猪苗代城跡～西円寺喚鐘～㉑磐椅神社～㊿田中正玄の墓～㊼土津神社～バテレン塚～㊷服部安休の墓～旧二本松街道～㊻五輪塔～㊹三忠碑・旧二本松街道松並木～㊸摺上原古戦場～㊺御上覧場一里塚～㊶忠彦霊社～殺生石・硯石～（翁島駅）　（所要時間：徒歩6時間）

■Bコース（猪苗代湖岸ハイキング）

（上戸駅）～上戸浜～志田浜～㊹小平潟天満宮～天神浜～白鳥浜～㊹野口記念館・㊶会津民俗館～長浜・翁島～㊼天鏡閣～迎賓館～㊷十六橋～（金の橋停留所）

（所要時間：徒歩7時間）

■Cコース（川桁山麓ハイキング）

（上戸駅）～志田浜～㊿麓山神社左右大臣～㊼関脇優婆夷堂～㊽都沢の公孫樹～㊹観音寺宝篋印塔～㊿白津からかさ松～㊷八手山城跡～（内野停留所）

（所要時間：徒歩5時間）

■Dコース（安達太良山登山）

安達太良山登山口～沼尻山白糸滝～㊷硫黄採掘廃坑跡～安達太良山～鉄山阿弥陀如来石仏～㊿安達太良山ヤエハクサンシャクナゲ自生地～胎内岩～安達太良山登山口

（所要時間：徒歩6時間）

■Eコース（吾妻山登山）

浄土平～㊽姥ケ原湿原～姥神石仏～谷地平湿原～白鳳寺跡～浄土平

（所要時間：徒歩5時間）

ー猪苗代町へのアクセスー

東京から	列　車	上野駅ー1:20ー郡山駅ー0:36ー猪苗代駅
	自動車	川口I.Cー2:10ー郡山JCTー0:20ー猪苗代磐梯高原I.C
仙台から	列　車	仙台駅ー0:43ー郡山駅ー0:36ー猪苗代駅
	自動車	宮城中央I.Cー1:10ー郡山JCTー0:20ー猪苗代磐梯高原I.C
新潟から	列　車	新潟駅ー 2:14ー会津若松駅ー0:30ー猪苗代駅
	自動車	新潟I.Cー1:20ー猪苗代磐梯高原I.C

■協力・写真提供：
福島県教育庁生涯学習領域／猪苗代町商工観光課
猪苗代町文化財保護審議委員会／猪苗代町重要文化財保存会／財団法人会津民俗館／財団法人野口英世記念館／日本シャクナゲ協会福島県支部／猪苗代地方史研究会／横田清美／田中新一／樋口利雄／本多洋（敬称略）
■監修・執筆・写真撮影：兼田芳宏
■イラストレーター：佐々木つねこ
※禁・無断転載

編集・発行／猪苗代町教育委員会
〒969-3192 福島県耶麻郡猪苗代町字城南100
TEL0242-62-2111（代）
印刷／東北紙工株式会社郡山営業所
〒963-0207 福島県郡山市鳴神一丁目69-105
TEL024-961-0880

発行年月日／2005年5月31日

文化財に関するお問い合わせは、猪苗代町教育委員会生涯学習課文化財保護業務までご連絡下さい。
TEL0242-62-5688